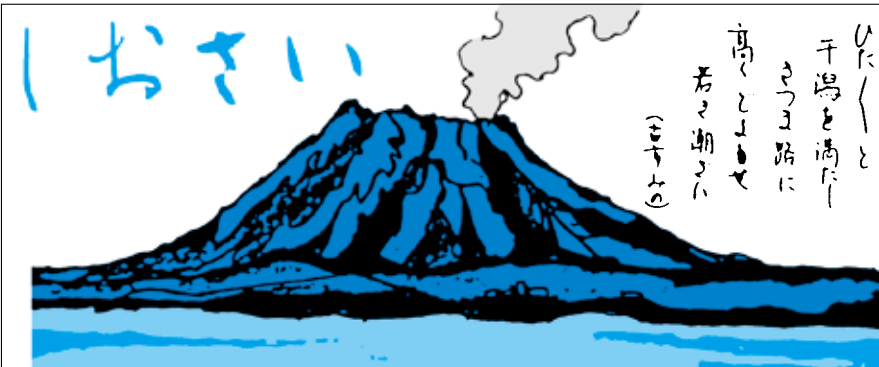




編集発行人

鹿児島大学保健師同窓会 しおさい会
〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学医学部保健学科
地域包括看護学講座内
会長 児島 淳子

「ホームページに求人情報も掲載中

<https://shiosaikai.org/>

ホームページからも住所変更やしおさい会
セミナーなどの参加申込みが可能です。」

いあいせい

鹿児島大学保健師同窓会
しおさい会会長

児島 淳子 (昭和53年卒)

令和7年、正月三が日は晴天で、この間澄み切った空気を吸いながら、桜島・霧島・開聞岳の稜線を見ることが出来、鹿児島ならではの山々に元気をもらいました。

皆様におかれては、新年のスタートを如何過ごされましたか？ いつもより長期の休暇を過ごされた方もおられたのでは。今年も健やかで幸多きことを祈ります。

今年は巳年。「新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年」とされています。「これからチャレンジしたいことを書き出すことからですよ。」という提案を耳にしました。自分なりのペースで試みたいです。

さて、令和6年を振り返りますと、地震・水害・地球温暖化現象等の厳しい状況や、世界各地での紛争や政權交代の中、多くの人命が失われてゆく悲しい現実、言葉が失うことと度々でした。そのような中、特に印象深かったのは、12月10日、日本原水爆被害者団体協議会に、ノーベル平和賞が授与され、代表委員の田中照己さんが、受賞演説で話された言葉でした。「核兵器も戦争もない世界を求めて共に頑張りましょう。」と、凜としたスピーチを聞き、世界の人々と平和を求めて一步を踏み出してゆきたいと切に願うことでした。そして、平和の大切さも教示下さっていた山元郁子先生は、6月16日に永眠され、本会報に、先生のことを偲ぶ記事を掲載致しました。先生との思い出は、同級生の方・教えを受けた立場の方・しおさい会セミナーなどでご一緒された方など、夫々の事柄が思い出されるのではないのでしょうか？ ご家族の方にも、「大

事なししおさい会の事を話したい。」と、度々話されていたと伺い、先生の熱い思いを引き継ぎたいと思うことです。

そして、いよいよ令和7年(2025年)。これまで健康福祉(とりわけ介護保険)の世界では、「来たる2025年課題」として、人口構成や制度のあり方が検討され続けてきました。日本の年間出生数の減少と死亡者数の増加、介護人材の不足等々、想定を超える厳しい状況の真つただ中です。「自助・互助・共助・公助」様々の手立てを駆使して乗り切つてゆきたいです。国は、「次なる2040年を目指して」と、検討を始めています。「多様な生き方・働き方・そして考え方が存在する中で、保健師に期待されている自律した専門職とは？」のテーマは、これまでも追い続けてきたもので、更に期待の高まりがうかがえます。

更には、来年(令和8年)度から、鹿児島大学の保健師課程が大学院化されることから、その準備に大学では多方面で力を尽くしておられ、期待は大きく膨らみます。

さいごに、「しおさい会」の今年の動きについて案内いたします。本会報にも記しております「第23回同窓会と懇親会」を計画し、それに向けて準備中です。久し振りに、皆さんと会談出来ることを心より楽しみにしております。本年度をもって、保健学科における保健師の養成課程が終了することから、今後の新規会員の受け入れについても、皆様と検討したい事項です。今後も同窓会の活動に関心を寄せて頂き、一層のご支援とご協力を賜りますことをお願い申し上げます。

(二月記)

第23回 しおさい会総会のご案内

日時：令和7年8月2日(土)10時~14時30分

場所：温泉ホテル 中原別荘(鹿児島市照国町15-19)

内容：総会

特別講演 「鹿児島県の精神医療 ～保健師へのエール～」

講師 鹿児島大学 第13代学長 佐野 輝先生

※ 社会構造の変化とともに、保健師にはいすれの領域においても精神保健に課題を抱える人々への支援が求められています。そこで、精神医学の専門家として、また、前学長としての佐野先生からお話を伺います。ぜひ、多くの仲間と聴講し考えましょう。

懇親会

第10回 しおさい会 セミナー報告

テーマ「地域で輝くよりそいカ ～お互いに学び合う～」

令和6年5月18日(土)に鹿児島大学医学部保健学科において、第10回しおさい会セミナーが開催されました。

学生さん4名を含む31名の参加があり、学生さん、同窓生それぞれ2名の活動報告とディスカッションで保健師業務のやり甲斐や面白さについて改めて考える楽しい時間となりました。

●講話1 「子ども食堂で地域を元気にする」

ボランティア団体「チーム Maru」

代表 西村 るり子(昭和54年卒)



ボランティア団体「チーム Maru」は、子ども一人ひとりの育ちを応援することを目的とし、給食調理師、医療・福祉職、保育士等で構成。

地域コミュニティの弱体化により、地域のつながりの再構築が必要となっている現状において、「子ども食堂」は「居場所」、多世代交流の場などの機能が求められ、「ほっぺ食堂」は、「ケア付食堂」としての機能を持っている。

本県は全国でも有数の貧困率。貧困は見た目ではわかりにくく、訪問し空っぽの冷蔵庫を見て確認することも。貧困の連鎖を断つことで明るい未来を目指したい。

「ほっぺ食堂」の活動の一つが、学校給食の調理師が百食の美味しい弁当を作り、「みんなで食べると美味しい」体験や「食育の場」。

もうひとつの活動として、経済的困窮者やひとり親世帯などに食品を無料配布する「フードパントリー」にも取り組む。食品等は、多くの企業や個人から寄付されたもの。地域には誰かのお役にたちたいと考える人たちはたくさんいて、家庭菜園で作った無農薬の野菜を届けてくれる方もいる。

また、貧困家庭等の子どもの「体験格差」を減らすため、保育士や大学生と一緒に楽しい遊びの活動もしている。ワクワクすれば自然とところも動き出すため、様々な体験によりこころの成長を促す。

更に、生活上の課題を抱えながらも自ら援助にアクセスできない個人や家族に対しては、積極的に対象者のいる場所に向いて働きかける「アウトリーチ(訪問支援)」にも取り組んでいる。

「お弁当のおばちゃん」がお弁当を個別宅配しながら、生活の様子を把握し、問題解決につなげる。このスタイルは、真に困難を抱える方たちからは受け入れられやすい。

自宅への訪問ができにくい方とは「バックミラーを赤くした車」で、コンビニの駐車場で会うことも。初対面の方にもわかりやすいようにバックミラーは赤くしている。

これからも、深刻化する「社会的孤立」に対応するため「伴走型支援」でつながり続けたい。本当の支援は「幸せになるための支援」で、大切なのは「まなざし」と「姿勢」。「明日があるように」できる人ができる時にできることをする。

困っている当事者は社会を良くする「種」を持っている。個人の問題を社会化し、社会の取組で解決していくことが大事。「おばちゃん」は地域の総称、おばちゃんが地域の課題に取り組むことで地域も元気になる。

これらの活動を続けていく原動力は「助けて」と助けを求める当事者の方々の真の声。この声を聞ける(言ってもらえる)ようになるには、真に信頼される関係になるまで「やさしい眼差し」と「視点」で関わり続けることが大事。

●講話2 「地域ボランティアサークル

『かすみ草』活動報告」

リーダー 本田 愛理・会計 狩宿 綾華

鹿児島大学医学部保健学科4年(令和7年卒)

「かすみ草」は、2020年9月に保健学科看護学専攻の学生により設立されたボランティアサークル。「かすみ草」の名前には、地域や地域に住む人たちのために、自分たちで考え、企画し、実施していこうという思いが込められている。

1 主な活動

①フードパントリー

チーム Maru 西村さんの食糧支援の手伝い。食材の準備、季節に合わせたレクレーションの企画、実施

②学習支援活動「ホットスポット」

経済的な理由により塾に通うことができない子どもや学校に抵抗がある子どもを対象に、学習やレクレーションを実施

子どもが安心して学習できる環境を作ることで、学習の楽しさや将来への希望につながるよう支援

○計画立案から関係機関へ案内、開催場所の手配、参加者募集、準備、当日の実施、実施後の評価まで一連の作業をメンバーで実施

○工夫していること

【開催前】

- ・あいさつ回り(鹿児島市役所・ひきこもり地域支援センター)
- ・ポスター配布
- ・感染予防対策
- ・対象に合わせて関りができるよう参加者の情報共有

【開催中】

- ・スタンプラリー(ホットスポットカード):3回参加で景品プレゼント
- ・安全に配慮:道路に飛び出さないようドアを閉める、様子の観察
- ・話す時の目の位置:その子の目線に合わせてしゃがむ。
- ・笑顔で接する:親しみやすいお兄ちゃん、お姉ちゃんに
- ・子どもたちのことを知ろうとする姿勢を持つ、特性を理解する。



- ・勉強を教えるときに座る位置・正面ではなく90度の位置
- ・勉強以外の息抜きの時間を作る・トランプ等で交流、おやつ時間

【開催後】

- ・物品の片付け、消毒
- ・ミーティング:気づいたことや改善点、感想を共有し、次回に活かす。

③他団体や外部の方とのボランティア・活動（昨年度の活動例）

- ・子ども食堂
- ・鹿児島大学の他のボランティアサークル活動への参加

2 地域の実際

- ・物価の高騰、家事ができる大人がいない、学習時間が確保できない、相対的貧困
- ・親子関係が複雑、一人親家庭、障害児を持つ家庭、親が働けない、いじめ、不登校、ヤングケアラー、相談できない。
→背景は一つではない、地域で支援を必要とする対象者
身なりや外見だけでは相対的貧困状態はわかりにくい。
- ・不登校に悩む子どもたちの背景は様々。これらの子ども達の思いは、話を聞いて欲しい、寄り添ってくれる安心感。回を重ねるごとに心を開いてくれた。

【活動に参加して気づいた視点】

- ・親と子どもの両方に支援が必要
 - ・原因が多岐で複雑。対象者への支援方法は一つではない
 - ・保健師一人では対応できない
 - ・物資の支援だけではなく、自立できるように一緒に考える
 - ・原因を一つずつ解決していく
 - ・まずは話を聞いてもらえる環境から、対象者の声を拾う
- 支援するための居場所が必要

3 地域にもたらす活動の力

①地域の中の居場所

(地域の方にとっては)

- ・支援だけでなく、相談や子どもが遊んだり、交流できる場所
- ・相談できる場所のある安心感

(支援者にとっては)

- ・地域の現状や課題を学ぶ場
- ・支援者同士の交流の場
- ・地域とふれあえる楽しみ、憩いの場

②支援者とのつながりの場

- ・地域の方が野菜や食品、衣類提供
- ・企業のフードロスへの取組み
- ・専門職のボランティアの方々
保育士、税理士、保健師、調理員、ソーシャルワーカー、心理士など

③元気をもらえる場

- ・支援者と対象者がお互いに支え合う存在
 - ・対象者から活動への感謝や参加者の心境の変化を感じることができ、やり甲斐を感じる。
 - ・子どもの成長や生活の変化を一緒に喜び合える。
- ※大学では学べない地域の方と関わる仕事の楽しさを感じる。

④地域の保健師として必要な力

- ・保健師一人だけでなく、多職種につなげて誰でも同じ支援が続けられるようにする。
- ・地域の特性を理解する。
- ・実際に地域の人と交流する。
- ・課題だけでなく、「強み」を活かした支援。
- ・先々に起こる問題を予測する、早めの介入を行う。
- ・対象者の話を聞き、寄り添う、信頼してもらうことから。

●講話3 「県保健師の活動報告」

鹿屋保健所 地域保健福祉課 高田 紗矢（令和3年卒）

1 これまで関わってきた業務

総務事務センター（産業保健）

- ・労働安全衛生管理体制づくり
- ・健康診断、健康教育、健康相談
- ・ストレスチェック
- ・長時間労働者の面接
- ・職場復帰支援 など



2 現在の業務

鹿屋保健所地域保健福祉課地域支援係の保健師業務

- ・住民・関係者等からの相談対応
- ・自殺対策（自殺未遂者への支援、自殺対策ネットワーク会議）
- ・精神障害者の地域移行・地域定着支援
- ・自助グループ・家族支援教室
- ・措置業務・措置入院者退院後支援
- ・精神科病院の実地審査・実地指導
- ・管内の精神保健福祉関係機関との連絡会・定例会
- ・医療保護入院届等の進達業務

<参考>

鹿屋保健所における保健師業務

管轄区域：2市4町

(鹿屋市、垂水市、南大隅町、錦江町、東串良町、肝付町)

【健康企画課（課長含み9人）】

- ・企画管理係：保健医療計画、地域医療構想
- ・健康増進係：小児慢性特定疾病研究事業、不妊療費助成、成人・高齢者保健対策（認知症）
- ・疾病対策係：感染症予防対策（結核管理）、難病対策

【地域保健福祉課（3人）】

- ・地域支援係：精神保健福祉
- ・介護指導係：介護保険事業者・施設の指定、指導監査

3 心に残る事例

措置入院後の30歳代、独居女性への支援

① 退院後初めての自宅訪問

- ・「また入院させに來たんでしょ」、「もう来なくていいです」→どう関わればいいのか分からない。
- ・独居で生活、自宅は入院前のまま、床は物であふれている。
- ・「保健所は入院させる場所」不信感、警戒心
- ・本人が抱える人間関係の問題
- ・精神科受診「もう行きたくない」
- ・環境の変化（就労継続支援事業所変更、引っ越し）

●講話終了後、3グループに分かれ感想などを25分程度話し合った後、代表者が概要を発表

- ・顔の見える関係でつながっている素晴らしさを実感した。
- ・子ども時代の愛着障害を予防する仕組みづくりが必要だが、うまくいかない現状
- ・当事者の良いところをみて寄り添う支援、継続的な支援の実践などすばらしい。
- ・地域の中でできることに取り組んでいくことの重要性を学んだ。

② 本人の強み

- ・障害福祉サービスを利用しながら、これまで独居生活していた。
- ・A型事業所に通所していた。
- ・自分から関係機関に助けを求めることができる。
- ・自分の気持ちや希望を言語化できる。
- ・保健所以外にも本人を支援する機関がある（病院、相談支援事業所、B型作業所、基幹相談支援センター、市町村など）

③ 対応

- ・信頼関係の構築
- ・傾聴、肯定的に本人と関わる。
- ・再入院にならないよう一緒に考えたいことを伝える。
- ・人間関係の悩みについて
気持ちの整理、変化に寄り添う。
- ・受診について
行きたくない理由を聞く、気持ちに理解を示す。
- ・主治医へ伝えたいことを一緒に整理、伝え方を考える。
- ・相談窓口、いつでも相談して欲しいことを伝える。
- ・関係機関との情報共有。訪問の報告、定例会での情報共有

●同窓生の徳永さん、保健学科の石川助教にまとめをしていただき、参加者全員で写真撮影し終了しました。

<徳永さん>

保健師はどこにいてもその強みを生かせる仕事。
どこにいても「くじけず」「ひるまず」「あきらめず」、ぜひ保健師を楽しんで欲しい。
看護師をしてからでも保健師を目指してほしい。



<石川助教>

これからの実習や社会人になってからも役立つ話で、学生に聞いてほしかった。
若い学生に「地域の力」を伝えていけるよう、尽力したい。



(アンケートまとめ) (回答25名)

- ・テーマや内容については、全員が「良かった」、開催時期については、ほとんどの方が「丁度良い」と回答
- ・グループワークの時間や参加者の増加については、更に改善や工夫が必要との意見が多かった。

<自由意見>

- ・地域を巻き込み支援を輪を広げて課題解決に取り組む活動を知った。
 - ・対象者の強みを活かした支援が印象的だった。
 - ・グループワークの時間をもう少し取れるとよかった。
- 皆の思い、近況が聞けるととても貴重な機会なので。

貴重な実践を報告くださった講師の方々、参加くださった皆さん、本当にありがとうございました。

また、業務御多忙の中、学生さんへの周知や会場準備など開催に向けてご尽力くださった石川助教さま、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

「保健師の仕事って素晴らしい!」「世代は違っているけど、保健師というだけで仲間って感じ。仲間と話すのは楽しい!」と改めて感動する1日でした。

うまなみ全セミナーに参加して

鹿児島大学医学部

保健学科4年

加治佐 千咲

(令和7年卒)



ボランティア団体チーム

Maruの講話では、子ども食堂の設立運営には地域住民を巻き込む力やアウトリーチ、地域間でまわしていき支援の輪を広げていることなど保健師の役割が詰まっていることを知りました。また、子ども食堂では人のあたたかさを経験する場でもあるという点が印象的でした。必要な物資のみを支給するのではなく、レクリエーション等体験活動の実施で豊かな経験を育む機会になっていることを学びました。こうした活動を通して、子どもたちにとって、地域が居場所になるのだと感じました。さらに、ボランティアサークルがすみそりの講話では、大学生が活動に参加することで子どもたちにとっての

ロールモデルになり子どもたちの学びに影響を与えるのだと知りました。大学生だからこそできる地域への支援があることや大学生が地域に関わることの役割について考える機会になりました。

高田さんの講話では、精神保健業務での経験から教科書では学ぶことができない個別支援について知り、精神保健に携わる保健師の実際を学ぶことが出来ました。講話を聴いて、個別支援は本人の強みにも目を向け、関連機関との連携強化や話をじっくり聴く場を設けて寄り添うことが大切だと気づきました。関わり方に関して職場の仲間や関連機関と協力して一人で考え込まないことも大切だと感じました。長期的な目で本人さんのペースに合わせて信頼関係を構築していくことに心掛けようと思います。

しおさい会に参加して、さまざまな場で保健師として働く会員の方々とともに、いろいろな視点で鹿児島県の課題や講話の感想を共有し、学びをより深めることが出来ました。

た。あたたかい雰囲気で、しおさい会内のつながりの強さを感じました。卒業後も、しおさい会のような共有し合えるコミュニティがあることを知ることができ参加できて良かったと思います。

鹿児島市

西部保健センター

横山 和喜

(令和2年卒)



みなさんこんにちは。私は今回、初めてこのしおさい会セミナーに参加させていただきました。職場や世代を超えて、多くの保健師の方々と知り合うことができ、またセミナーや小グループでの語り合いを通して様々な刺激を受けとても新鮮な気持ちになりました。

また、鹿屋保健所での精神保健分野支援や、子ども食堂での事例、鹿児島大学の学生さんの保健活動サークル「かすみそり」での活動など、普段なかなか知る機会がないこ

とについて講話を聴くことができ、当たり前ではありませんが、多くの方が色々な場所でも様々な保健活動をされているんだなと実感し、保健師の地域での必要性やその存在の大きさにとても感動しました。

セミナーの中でそれぞれ講師の方が何を大切にしているのかも話されていて、一方的に指導するのではなく教わる姿勢をもつて関わることで、本人・家族の困りや生活背景を捉えたうえで今後のことを一緒に考えていくことなど、保健師として基本でも、忘れてしまいがちなことを改めて意識することができ、今後の自身の保健活動に活かしていきたいと思いました。

また、グループでの語り合いの中では、個別支援を積み上げ、地域課題への支援体制を構築していくことが保健師活動の目的であるという話題も出ました。学生の頃は知識として習ってもあまりイメージができませんでしたが、保健師として働き始め、さらに今回のセミナーを通して感じた保健師同士のつながりの重要性を知ることができ、個人だけでなく広く組織として、

また組織同士で協働して地域づくりに貢献することのイメージが少しでもできた気がしました。

今回セミナーに参加させていただき、様々な刺激や知見を得ることで、自身の保健活動に少しでも深みを持たせることができ、また職場や世代を超えた保健師同士のつながりや意見交換の場を持ち、保健師としての意識や価値観に非常に良い変化をもたらすことができました。今後も機会があればぜひとも参加させていただきたいと思います。





鹿児島市

地域包括支援センター吉野

(令和6年卒)

浅谷 梨子

私は、令和6年4月に鹿児島市地域包括支援センターに保健師として就職し、現在は吉野事業所に所属しております。

私が鹿児島市地域包括支援センターに就職したのは、鹿児島市の健康寿命の延伸に貢献する為に高齢者福祉に尽力したいという思いがあったからです。

地域包括支援センターの業務としては、高齢者やそのご家族の相談対応、「介護や支援を必要とする前」の高齢者や要支援者が要介護状態にならないための介護予防ケアプ

ラン作成業務、高齢者虐待の早期発見・対応や高齢者の権利擁護業務、高齢者が住み慣れた地域で生活するために必要な援助・支援を、関係機関と連携し、さまざまなサービスを包括的・継続的に提供できる体制整備など、多岐にわたります。

地域包括支援センターは、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員等の職種が所属しており、保健師の視点に加え、多職種の視点を学ぶことが出来ます。経験豊富な先輩方にご指導いただきながら、高齢者を医療・福祉の面で多角的にアセスメントをし、必要なサービスをご提案することで、高齢者の暮らしや心身の状態が改善し、高齢者の望む生活に近づけることが出来た時にやりがいを感じます。

要支援者の方（私が関わっているケース）の中には、ヘルパーさんの力やボランティアの方の力を借りて在宅生活を送ることができている方がいます。超高齢社会の中で利用者様が地域で生活していくには、介護保険などの公的サービスだけでは支援内容に限界があるため、住民主体の有償ボランティアの方の協力

や活躍が重要なものとなってきます。利用者様の在宅生活を支えるためには、公的な機関や医療・介護機関の方々だけではなく、地域の人やボランティアの方々や連携・協力しながら支援していかなければならないと日々感じているところです。

学ぶことの多い毎日ではありますが、高齢者の方が住み慣れた地域でその人らしく生活できるように、いつでも支援を必要としている方々の立場になって対応ができる保健師になれるように努力していきたいです。



還暦を迎えて



鹿児島県高次脳機能

障害者支援センター支援員

(昭和61年卒)

辻村 伸代

小さい会役員の川崎さんから柔らかな声で誘いがあり、紙面を通して懐かしい声を聞くチケットと交換できるのなら、と筆無精者がキーボード

を叩いています。

卒業後、養護教諭を経て、高校教諭となり福祉や看護の専門教科の教鞭をとつてきました。

学校現場は楽しさややり甲斐があふれる現場でした。仮眠をとり1時間の授業準備に何時間も教材研究をして授業して……を繰り返す日々。もつともつとと試行錯誤で授業を組み立て直していた毎日を、今、ゆつくり懐かしんでいます。

思春期から青年期に駆け上がつていく輝き勢いのある生徒達との日々は、やり甲斐のある仕事でした。一方、転勤に伴う引越しも単身赴任も経験しました。親の看護も介護も十分にしていれば後悔もありません。「働いていきなさい」と背中を押してくれた親の想いを受けながら歩き続けていくうちに還暦。赤の帽子とお決まりのチャンチャンコを着て記念撮影するそこには感謝を伝えたい両親の姿はなく、代わりに孫の存在が、世代の変わり目であることを気づかせてくれました。

現在は、小野町にあるハートピア鹿児島の高次脳機能障害者支援センターで支援員として活動しています。このセンターは、疾病や事故等が原因で脳機能障害が起こり、生活に支障が生じている方々へ支援コーディネートを行う所です。一見、見えない障害とされている障害である高次脳機能障害の症状への対応、障害者手帳や障害福祉サービスに関する相談等も受けています。自動車運転再開や復職や再就職、こころの相談事等、障害から派生する様々な障害を和らげ、解決するために、情報を伝え支えていく仕事です。着任して二年目、まだまだ支援の基礎になる知識も人材ネットワークも不足しており、ケース毎に気づかさね、教えていただきながらの毎日です。

さて、夕方、暗くなるのが早くなりました。今夜は豚汁でも作りましょうか、保健婦学校で毎日の生活を大事に重ねていくことが大切であると教えてもらいました。たった1年の学校でしたが、多くのことを教えていただいたことに感謝しています。

恩師 山元郁子先生の御霊のご平安をお祈りいたします。

大学院化に向けて

鹿児島大学医学部保健学科

地域包括看護学講座

公衆衛生看護学領域

教授 古島 大資

このたび、令和7年4月1日付で、鹿児島大学医学部保健学科 地域包括看護学講座 公衆衛生看護学領域の教授を拝命いたしました古島大資と申します。しおさい会の皆様にはこの場を借りてご挨拶申し上げます。

私は平成18年に広島大学医学部保健学科を卒業し、埼玉県にて行政保健師として勤務した後、平成23年より大学に移り、教育・研究に従事してきました。本学には令和4年より准教授として奉職しております。

現在、本学では令和8年度からの保健師養成課程の大学院移行に向けた準備を進めております。大学院では従来の保健師教育をより一層充実さ

せるとともに、研究活動を通じて学生の課題発見・解決能力の向上に努めていきたいと考えています。この実現には、教育・研究における教員の役割に加え、現場で活躍されている保健師の皆様のご支援とご協力が不可欠であると考えております。また、同窓生の皆様が培われた知識や経験は、次世代を担う学生たちにとって大きな財産です。私は今後、同窓生の皆様とのつながりを大切にし、鹿児島大学の誇りと伝統を受け継ぎながら、時代の変化に即した教育の発展に尽力し、より充実した学びの環境を築いていきたいと考えております。

しおさい会の皆様には、引き続きご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和7年4月1日

山元先生を 偲んで



「山元郁子先生を語り継ぎたい」

会長 兒島 淳子

令和6年6月16日 山元先生は享年96歳で逝去されました。

先生の面影を偲びながら、今回の会報誌を通して、先生への感謝の思いを申し上げたいと、存じます。

先生の自著「ひとすじに」に記されています、「ご経歴」を初めに記します。

昭和4年 出生

鹿児島県立興健女子学院（3年課程）卒業

昭和24年 鹿児島県保健婦として川内・宮之城・出水保健所勤務

昭和35年 出水保健所婦長

昭和38年4月から 鹿児島大学医学部附属保健婦学校講師・教務主任

平成元年4月 鹿児島大学医療技術短期大学部専攻科地域看護学特別専攻助教

5月 主任

平成3年10月 教授

平成4年3月 退職

以上29年間、鹿児島大学において教鞭をとられました。城山キャンパスから桜ヶ丘キャンパスへと学び舎が移る経過の中で、教育の実際のみならず、学びの環境を整えるために国や県等にも働きかけられ、学内の先生方や事務関係の方々と共に奔走されたと伺いました。先生の薫陶を受けた社会に送り出された学生は600名余。日本の保健師教育界で、もつとも長期にわたって教育にあたってこられたことから、平成4年に厚生大臣表彰を受けておられます。皆さんは、どの時期に先生との接点があったのでしょうか？

先生は、同窓会の設立に向けても、その重要性和継続した活動の意義にも視点を置かれ、昭和54年1月の発会前より尽力され、同窓会長職も、平成5年度から16年度まで通算12年間その任に従事下さいました。

「山元でございませう」と、穏やかに述べられる重厚な声

が今も耳に聞こえそうです。先生にお目にかかりたく、全国から卒業生が同窓会にかけつける事でした。先生の記憶力、とりわけ、個人名と在学時のエピソード、就職に向けての助言等をしっかりと覚えておられたことは、思い出すだけでもその愛情を想うと涙がこぼれてきます。教え子の成長や困難に向き合っていることも熟知され、いつも温かく抱き留めて下さいました。

先生におかれては、令和6年のある時、息子様に「しおさい会への寄付をよろしく頼みますよ。」と、伝えて下さっていたことから、令和6年秋に、同窓会への寄付を頂戴致しました。

コロナ禍の中で、私は限られた先生との面会の機会に、先生の手に触れて「しおさい会を見守ってくださいます。」と、言葉にしました。先生が握り返して下さった温もりを忘れず、これからも先生のことを感謝の言葉とともに、語り継いでゆきたいです。夏の同窓会の場に先生のゆかりの品とお写真を展示します。皆様との語らいの中に、先生を身近に偲びたく存じます。「山元先生、心より有難うございました。」

職場紹介

協会けんぽ鹿児島支部

平成7年卒 西青木 美代

協会けんぽ鹿児島支部は、主に中小企業で働く従業員とその家族約59万人の加入者と約3万事業所（令和5年度末現在）からなる保険者です。県内全域に13名の保健師が在籍しており、加入者のみなさまが「その人らしく」「ありたい姿で働き続けることが出来るよう支援する」ことを目指して保健事業を展開しております。私たちの主な業務は、生活習慣病に対する特定保健指導・重症化予防対策・事業所が取り組む健康づくり支援です。さまざまな加入者の皆様と特定保健指導等を通してそれぞれの健康課題に共に取り組むことは、この職場で働く大きなやりがいとなっております。協会けんぽでは支部内の研修でより質の高い保健指導を行うためにロールプレイング等で日々の支援を振り返り、互いに研鑽して更なるスキルアップに務めています。普段は一人一人が事業所を回る業務のため、支援内容の相談や困り事もこの研修で上司や同僚から助言を頂けることが仕事のモチベーション維持に繋がっています。労働人口の減少や従業員の高齢化、働き方の変化など社会を取り巻く環境が刻々と変わっています。健康を守り活気ある働き手を支えられるよう、私たち協会けんぽ保健師の存在意義を感じながら従事していきたい所存です。

【ある日のスケジュール】

6時：起床

子どもの弁当作り

9時：事業所訪問（特定保健指導）

次の事業所へ移動

11時：帰宅、訪問内容の入力

電話支援（特定保健指導の継続支援）

12時：昼食・次の事業所へ移動

13時：事業所訪問

16～17時：帰宅、入力作業、電話支援

19時：夕食・片付け

20時～犬の散歩・入浴・洗濯

22時：韓ドラタイム（心の洗濯）

23～24時：就寝



仕事と家庭の両立ができ
大変働きやすい職場環境です！

【同僚の声も紹介します！】

平成15年卒 帖佐 桂子

協会けんぽに入って半年。保健指導のロールプレイングやお互いの情報交換、仕事での悩み相談などにより、先輩方の仕事に対する熱心さを目の当たりし、とても刺激になっています。またライフワークバランスをとって家族や趣味も大切にしながら仕事をされている姿を見て、私も考え方が大きく変わりました。これからも協会けんぽで仕事を楽しみながら頑張ります！



会計係からのお知らせ

会費の納入をお忘れなくお願いします



しおさい会の会報誌の作成や隔年毎の総会及びセミナーの開催、連絡員との交流会などは、皆様の会費で成り立っています。しかしながら、会員数と会費納入は減少傾向にあります。会費の納入を忘れずにお願いします。



編集後記

皆様のご協力のおかげで、しおさい第40号をお届けすることができました。お忙しい中、快く寄稿いただきました方々に心より感謝申し上げます。（文責：羽生）